

第7章

野球を通して恩返し

副読本  
46～47ページ

年 組 番 氏名

1

作文を読み、どのような気持ちでこれからの生活に取り組むことが大切かを考えましょう。

野球を通して恩返し

私達、硬式野球部は、地震発生時高校のグラウンドで練習していました。その時、牽制練習をしていました。地震が起きた時には自分の身の安全を確保してからグラウンドの中心に集まりました。体育館や教室からは他の部活をしていた生徒や教員が出てきて、在校していた生徒の確認をはじめました。揺れがおさまり、運動部は水くみや避難所の確保をはじめました。津波が来た時はただ見ているだけで何もできませんでした。津波が来た後は高校の下にある老人ホームに救助に行きました。そこには言葉にはできない無惨な光景がありました。

男子の運動部が全員で救助に行きました。何人かの命は助けることができましたが救助することができなかった人をもっと早く助けていればよかったと思っています。3月11日は学校の施設にいました。ストーブは一つで全然あたたまりませんでした。救援物資で食料をもらいましたがおにぎりが1つでした。その日は寝れずにずっと起きていました。2日目には朝から瓦礫を拾い火がつきそうなものを拾いました。その後は食べられそうなものを探しに町へ行きました。私は2日目の夕方に近所の人が迎えに来てくれたので帰宅しました。そこから学校に残りボランティアをする者や地区のボランティア活動をする者に分かれ、それぞれのことをして生活していました。私は自宅が大丈夫でしたが部員には家や家族を失った者もいます。しかし、練習が始まるまでの2ヵ月間私達はボランティアと自主練習をやり続けました。

部活動が始まったのは4月中旬でした。久しぶりに仲間と会い笑顔がたえませんでした。そこから毎日のように練習が始まり、やっと普通に部活ができるようになりました。これから1ヵ月後に学校が始まり授業が再開しました。始業式は志津川高校で行いました。そこで新たな出会いがありました。新入生に新しい先生、さらに学校や部活に対する思いが強くなった瞬間だと思いました。また登米市の高校を間借りする事にもなりました。上沼高校、登米高校の二校に分けられました。またコーチの先生が登米市内の球場を借りてくれて練習に対する士気があがりました。しかし、時間がずれたりすると球場までいかずに間借りしている高校の野球部と一緒に練習することもありました。球場まで移動する手段は上沼から3キロ、登米から7キロの道のりを走って移動しました。最初はもちろん走ることが嫌でしたが、少し

ずつ体が軽くなっていくことが分かり走ることも楽しくなっていました。選手権に向けて心がけたことは、まず体づくりや体力を戻すことが1番でした。しかしそれ以外にも家族や家を失った部員が多いのであまりそこに触れるような言動はさけるようにしました。しかし、部員内では「家流された」などを気軽に話し、なごませることをしました。また、志津川の高校で練習をする避難している人からおにぎり、パンや牛乳などをいただきました。全国各地から届いた物資もありました。私達はこれを見て受け取って感じ、恩返ししなければならないと思いました。すると自然に「甲子園で恩返ししなければならない、応援してくれる人達のためにも」と部員の中で強く思うようになりました。そして、7月、いよいよ最後の選手権大会が開幕しました。1回戦の相手は岩ヶ崎高校でした。私達がクリネックススタジアム周辺でアップをしていると地元の方々に来てくれました。少しすると避難所の人達が来てくれました。「絶対に勝つ」と試合前にずっと考えていました。「町の人達を元気にしたい」と思いそのためには私達が全力でプレーしなければならないと思いました。試合が始まり、全力で攻めつづきました。その結果勝つことができました。試合後に「ありがとう」、「元気をもらったよ」などと声をかけてもらいました。勝ってよかったと本当に喜びました。2回戦は春の選抜出場校の東北高校、負気いは何もありませんでした。しかし結果はコールド負けでした。この日も応援に来てくれた人に「頑張った」と声をかけてもらいましたが何も答えられませんでした。3年間あつという間でした。今、最後の試合を思い返すと、あの時あしとけば、ああしてたら、などと思うことがあります。しかし、今は前を見て進むしかありません。この仲間と野球ができたことを私は誇りに思っています。私を含め3年生は進路を決めて生活しています。それぞれの夢に向かい頑張っています。後輩のみんなには今を全力で生きてほしいと思います。私達の夢を全力で追い達成してほしいと思います。また今回全国のみなさんに多くの支援をしていただきました。本当にありがとうございます。甲子園で恩返しすることはできませんでしたが私達3年生は別の形で恩返ししていきたいです。私も野球を通して恩返ししていきます。

